

(様式1)

令和2年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立第三吾嬬小学校
校長名	川中子 登志雄

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・全学年、全教科において、昨年より平均正答率が8ポイント前後上回り、「学習ふりかえり期間」等の取組の成果が表れているといえる。特に第4学年では、全教科10ポイント以上昨年度より平均正答率が高かった。・3年以上の算数では、各学年の平均で今年度区平均より5ポイント程度上回った。・6年算数では、理由を記述する問題の正答率が、区平均より13.6ポイント高く、思考力・判断力・表現力を伸ばす授業改善の成果が表れているといえる。	<ul style="list-style-type: none">・区平均との差で見ると、6年社会が0.1ポイント下回った。基本的な用語の理解や定着が課題といえる。・観点別に見ると、5年理科「観察・実験の技能」の正答率が目標値・平均値を5ポイント程度下回っており課題といえる。・小問別に見ると、4年生以上で国語の漢字の読み書きの正答率が目標値を下回っている。日常の学習における漢字習得の工夫が課題といえる。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・6年で「学習習慣」の肯定値が全国平均よりも5.5ポイント高い。特に「家で勉強するときは、自分で計画を立てている」「1日の勉強時間はこれくらいと、めやすを決めている」という設問の肯定率が高く、「三吾・学習スタンダード」による「学年+10分」や「トッピング学習」の指導が浸透してきている成果といえる。	<ul style="list-style-type: none">・3年で「学習習慣」の肯定値が全国平均よりも4.2ポイント低い。特に「家で勉強するときは、自分で計画を立てている」「1日の勉強時間はこれくらいと、めやすを決めている」という設問の肯定率が低く、「三吾・学習スタンダード」による「学年+10分」や「トッピング学習」の指導を徹底していく必要がある。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・タブレット端末を活用し、情報の収集や自分の考えの表現、友達の考えとの比較検討をする学習スタイルが定着している。・本校学校評価児童用アンケートの「学習に集中して取り組むことができたか」という設問に対して、肯定的反応率が93%であった。	<ul style="list-style-type: none">・休校期間等の影響で家庭学習に委ねた学習内容の定着や習熟について、「ふりかえりシート」等を活用しての授業や補習等で効率的に補完していくこと・特別な支援を要する児童への対応

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 学力向上委員会を中心にした組織的な「振り返り学習」の徹底

- ・ 墨田区学習状況調査結果を分析し、学力向上委員会発行の「学力向上通信（教員向け）」等で児童の実態や児童に身に付けさせたい力についての共通理解を図る。
- ・ 上記の分析や「Web 支援システム」の情報を活用し、適切な「ふりかえりシート」を厳選して家庭学習の課題として取り組ませるとともに、授業初めの5分間で解説し、定着を図る。
- ・ 1月に全学年で学力調査（国語・算数）を実施し、その結果を分析し、3月の「学習ふりかえり期間」において指導の重点を明確にした取組を進める。
- ・ 「三吾・学習スタンダード」を徹底し、学校全体で学習規律の確立を目指す。

(2) 個に応じた学習支援

- ・ D層E層に対して、SST（スクールサポートティーチャー）及び学校支援指導員を、各学年に週3時間（1, 2年は学級に週3時間）程度配置し、個別の支援を充実させる。
- ・ C層児童を対象にした「放課後すみだ塾」では、「Web ライブラリ」等のプリント教材を中心にスモールステップで学習に取り組ませ、基礎的基本的事項を定着させるとともに、学習意欲の向上を図る。
- ・ 5年生C層を対象に「すみだチャレンジ教室」を実施する。

(3) シンキングサイクルの活用による「見方・考え方」の習得

- ・ 校内研究のテーマを「授業における学習過程の研究～シンキングサイクルの活用による『見方・考え方』の習得」とし、授業改善を進める。
- ・ 児童にタブレット端末を、鉛筆やノート、教科書、辞書のような学習の「道具」として日常的に活用させ、学習意欲の向上を図り、他者との交流に主体的に関わるようにさせる。
- ・ タブレット端末の機能を、思考を整理し深める道具として活用させることで、課題解決のプロセスとしての児童の思考パターンの定着を図り、学習過程に見通しをもたせる。
- ・ 一律に課す「宿題」に加えて、「家庭学習のすすめ」（家庭学習を進めるためのリーフレット）に基づいて、児童が主体的に取り組む学習習慣を身に付けさせる。

3 「令和3年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・ 全学年、全教科の標準スコア 52.0 以上。
- ・ 全学年、全教科の観点別全 69 項目のうち、全項目で平均正答率が目標値と全国平均を超える。

- ・ 令和元年度の調査では、4年の国語・社会・理科、5年の国語・社会・算数・理科、6年の国語・社会、理科において標準スコアが 50.0 未満であった。これに対し今年度は標準スコア 50.0 未満の教科はなく、52.0 未満だったのが5年理科と6年社会であったことから、令和3年度の目標として全ての学年教科において標準スコア 52.0 以上にすることを目標とする。
- ・ 令和元年の調査では、観点別 69 項目のうち、目標値及び全国平均を超えたものは 33 項目であったが、今年度は 66 項目という伸びが見られた。全国平均を超えられなかった5年国語「話す・聞く」5年理科「観察・実験の技能」、6年社会「知識・理解」の観点も重点的に強化し、全 69 項目において、目標値と全国平均を超えることを目標とする。